

交流体育祭はまさにシン交流体育祭だった

6月9日行われた今回の交流体育祭は、大きく一步を踏み出す重要な大会になった。応援合戦だ。生徒のリーダーが練習から前に出て、各チームをリードし、その上、分教室の生徒も巻き込んで、各チームの応援を行った。今回初めて実施することができた。そして、大会閉会式の生徒会副会長の言葉や各チーム長の言葉とそれに対する生徒の皆さんの反応が、君たちの体育祭での成長を物語っていた。みんなが心からこの体育祭を楽しんでいた。長く本校に勤めている先生方は、特に感慨深いものがあるだろう。君たちが新しい歴史を刻んだ。3年生が一步踏み出してくれたこの形を今の1・2年生がどれだけ来年以降に挑戦し、進化させてくれるか、もう今から楽しみだ。ア・オ・ハ・ルしている君たちの姿がまぶしかった。

「挨拶日本一」は他校との比較ではない

「挨拶日本一の高校」を目指すことは、他校との比較ではない。この指標は、4月22日に発行した26号にも記したが、「自分から挨拶をしようと努力している」生徒の割合を基準にしている。その割合が100%になれば、もし他にそのような学校があったとしても、同率1位として日本一だと言えるという考えのもとに定めている。この目標は、①わかりやすいこと、②道具も費用も必要ないこと、③一人ひとりの気持ちの持ち方で達成可能であることなどの理由で設定している。「遅刻ゼロ」も同様だ。

比べるのは他者とはではなく、自分の過去とであり、それこそ過去の自分への挑戦、過去の自分からの成長が鍵だということに気付くだろう。私たち人間は、人の中で生き、人の中で成長する。いい出会いを引き寄せるためには、第一印象をアドバンテージに変えることが大切だ。出会った瞬間にプラスのイメージから入るため、また、こちらから心を開いていることを相手に伝えるための「挨拶」なのだ。

「自分の体の声を聞け」

梅雨だ。古典では五月雨（さみだれ）と言ひ、梅雨の晴れ間を五月晴れ（さつきばれ）と言う。暦の関係で6月であるが、五月を使う。梅雨の頃は、気温の差が大きく、湿気も多い。体調を崩しやすい。

さて、コアラは毒のあるユーカリの葉を主食としている。コアラの子どもは母親のフンを食べることで、ユーカリの毒を解毒する腸内細菌を体内に取り込むそうだ。ユーカリには様々な種類があり、その日にどの種類のユーカリを食べるのかを自分の体調に合わせて決め、決めたもの以外には決して手を出さない。野生動物は、本能で「自分の体の声を聞」くことで命を守っている。夏に向けて体調管理！

先日3年1組の今日の名言コーナーに書いてあった

「God doesn't require us to succeed; he only requires that you try.」

by マザー・テレサ

「神様は私たちに、成功してほしいなんて思っていません。ただ挑戦することを望んでいるだけよ。」

成功しようとすることで工夫もする。しかし、失敗は決して無駄にはならない。一步踏み出す勇気さえあれば、その失敗を次の機会に生かせる。挑戦しなければ、失敗もしないが、成長もない。

映画『トップガン・マーヴェリック』のセリフにもこうあった。*「Don't think. Just do It.」*

We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校を目指して 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩